

# 連珠っておもしろい

● 第16回 ● 名人 河村典彦

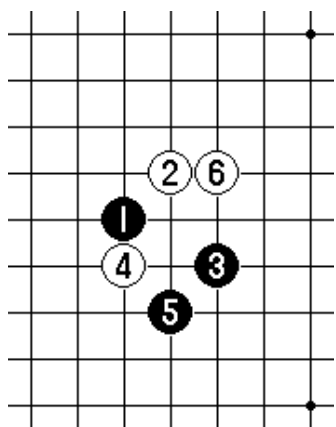
## 水月定石の変化

● 第16回 ● 名人 河村典彦  
 前回の山月定石について多くの方からご意見やアドバイスをいただいた。多くの方々に見ていただいていることを改めて認識すると共に、内容を充実させ今後とも皆様のお役に立つようにと思った次第である。

さて、今回は最近ちよつと話題になった水月定石を採り上げてみたい。連珠世界や珠友に立て続けに棋譜が載ったのだが、私は低段者時代に水月定石を学んでおらず、今回初めてそれに触れたというわけで、新鮮な気持ちで局面を見ることのできた。

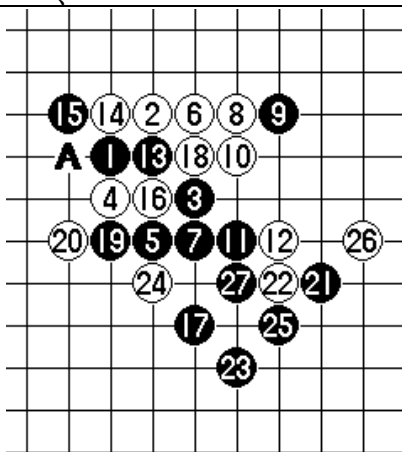
長年連珠をやるうとする定石というのはいつかは通る道なので、早いうちに学んでおいたほうが良いというのが持論である。最近

はとかく「定石はすでに勝ちなんだから覚えなくてもいいし、変化すれば実戦的には勝てる」という風潮にあるようだが、さらに強くなるには定石に戻るといえるのがこれまで見たパターンであるし、基礎がしっかりしていれば実力が落ちることもないし、新しい作戦も浮かんでくるといふメリツトがある。定石を軽視するのもいいが、まずはそれを知った上で判断してみてもうどうだろう。

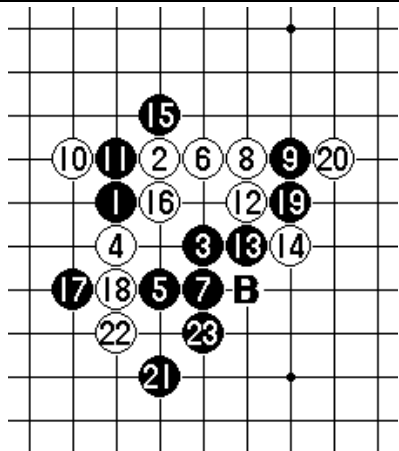


水月残月共通の白4の防ぎに黒5はもちろん定石で対して白6が独特の防ぎである。

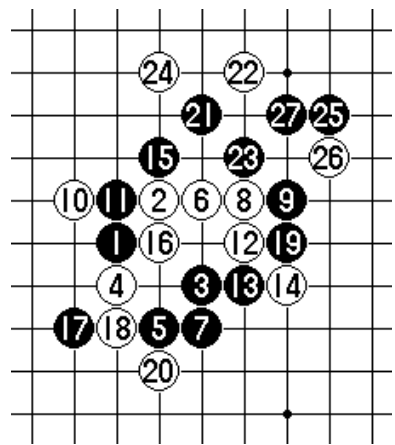
黒7と好形に組んで勝ちなのだが、白は6を利用して白8と三を引くのが狙いの反撃である。白10と単に三を止めれば以下黒の追い詰めであるが、まずはこれがわかりにくい。



黒11からすらすらと引き出し、黒17ではて？と迷う。黒Aでは白18止めできれないノリ手にかかるからである。私も困って定石書を見ると、黒17のトビ三が載っていた。白に三々を打たせる発想が斬新である。黒21に止めて白に四迫いはなく、以下下辺に展開して勝てる。



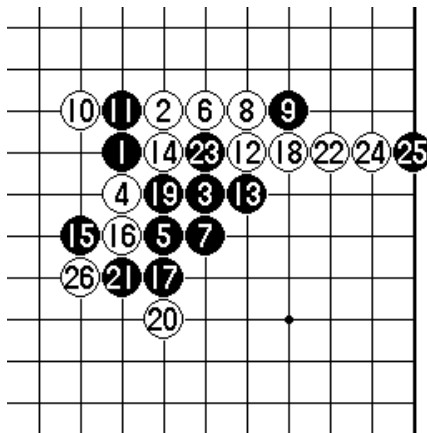
そこで白は先に10と飛び四を打って、B点を三々にしておくのがこの作戦のポイントである。これなら黒は13に押さえるしかない。そこで白14・16が一連の強防で、ここからの勝ちも一筋縄ではいかない。黒19と引いた時白の止めは2箇所あるが、上止めるときなら黒21とミせる。この時の変化が連珠世界に載っていたが、黒21が正しく、白22なら黒23の妙手で終わりである。また、白20を下止めなら、もちろん上辺に展開するの



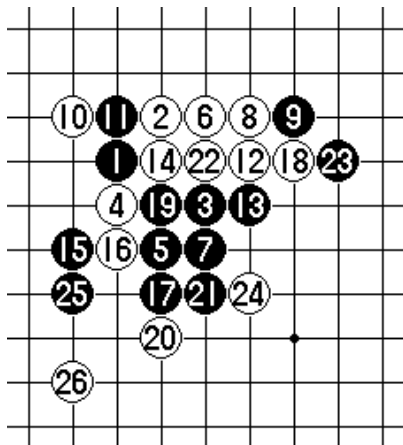
だが、黒25の妙手が打てないと白のノリ手にかかる。このような素晴らしい一手を知るだけでも、この定石を覚える価値はある。

さて、実はここまでが前置きで、ここからが本編である。白14を引かないで単に16に打つ手が京都阪神対抗戦で現れた。小磯Vs卵坊戦で、実際は残月から始まっていて、単に白16なので黒は当然17から追い勝ちと思つて打っている。黒19が含みなので大丈夫と思つたことだろうが、白20で意外に勝ちがなく、白22、24の

四ノビが効いては逆転白勝ちになっている。

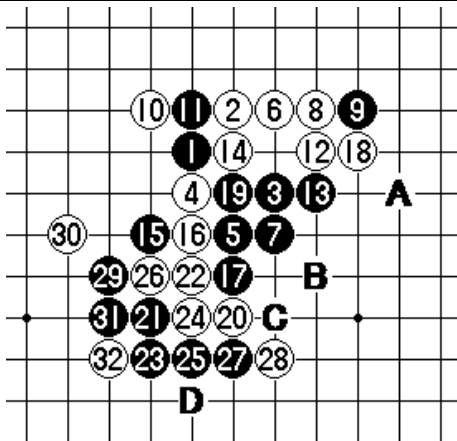


珠友で田村五段が黒21を（おそろく）26で勝ちと書いていたが、それは21と防がれて勝てない。



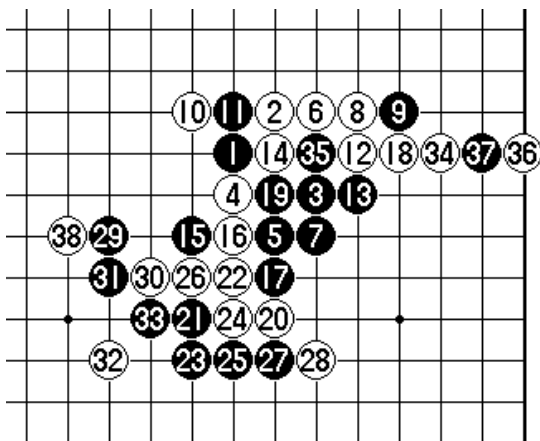
黒21と引くのも白22、24と防がれ、黒25には白26が当然ながらうまく、勝てない。偶然とは言え卵坊さんいい作戦をかけたね？

こうなれば無理やりでも勝ちを出してやろうと頑張つてみた。有力なのが次の黒21。これには白22とノルしかないが、とりあえず23と四三を打つて、黒が好形なので勝ちの臭いがふんぷんする。



黒27、29と引き出し、黒31で勝つたと思つても、白32と余裕で防がれ、狙いの

AとDの四追いがノリ手になっている。このノリ手があるのが今の筋が使えない。そこで、もう一工夫したので次の図。



黒29と広く飛び出すのが発想の転換。今度こそ勝つたと思いきや、白34、36の四ノビでぎやふん！である。ここまできたらもうお手上げである。本当に勝ちがあるの？おっと紙面が尽きたので解答は次号に。